

全国 保健師長会 だより

令和6年11月9日(土)、福井県福井市において、ハイブリッド方式による第46回全国保健師長会代議員総会が開催されました。

冒頭、前田香会長から「住民の抱える健康課題が複雑化・多様化する中、これまで以上に分野横断的な取り組みや多職種、多機関と連携して事業を展開するとともに、住民のありたい姿に向けて、現状とギャップを縮めるための方策を練り、より実効性を持つ取り組みを模索しながら保健活動を推進していく必要があります。保健師のネットワークを重要視しながら、時代の要請に応じた保健師活動を追求し、持続可能でかつ地域の特性を生かした健康なまちづくり、災害対策を推進してまいります」と挨拶がありました。

来賓祝辞では、厚生労働省健康・

第46回全国保健師長会 代議員総会報告

全国保健師長会会長 前田 香

生活衛生局長代理の後藤友美氏、全国保健師長会会長の藤田利枝氏、日本看護協会会長代理の松本珠実氏、日本公衆衛生協会理事長の松谷有希雄氏、福井県知事代理健康福祉部長の池上栄志氏、福井市長代理福井市福祉健康部保健衛生局長の三竹映子氏から保健師活動への期待とエールを頂きました。

総会

総会は、書面評決による審議によりすべての提案議案が承認されました。主な内容は次の通りです。

- ① 会員5549名の会費納入に基づき、令和6年度事業計画、令和7年度事業計画が成立した。
- ② 7年度の活動テーマを「未来を見据えた公衆衛生看護活動の展開」予防活動の実践、そして地域に

基調講演

国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官の茂木りほ氏を講師にお招きし、「次期統括保健師の育成」管理期に向けた中堅保健師の

根づく保健師活動の継承」とし、活動方針は、地域保健活動の推進に係るマネジメント機能の発揮に向けた取り組みの推進、地域診断と科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動や人材育成の推進、自治体間のネットワークの構築やプロク、支部における効果的な活動の推進、地域の公衆衛生看護活動の推進に向けた会からの情報発信の促進となった。また、役員・推薦委員選挙では、信任多数により副会長2名、推薦委員3名が選任された。

み合わせて行い、研修転移を促す工夫やジョブローテーションを危機的体験に終わらせないためのサポート体制が必要であること、全員で管理職(統括保健師)を目指す組織をつくるためには組織風土の醸成が重要であることを強調されました。

最後に、公衆衛生における人材育成は公衆衛生の実践と保健システムの全体的なパフォーマンスを向上させるために(住民のために)必要な機能であること、人材育成は個人の責任ではなく組織の責任であること、保健師のアイデンティティーの備わり方も多様ですが、組織の共通のビジョンやゴールを共有し、同じ方向を向くことが大事であることなど、広い視点で人材育成を考えることの重要性について示唆をいただきました。

実践報告1

大分県福祉保健部健康施策・感染症対策課地域保健推進監の池田裕美氏から「管理期に向けた中堅期の人材育成」中堅期保健師の自己効力感を高めるための働きかけについて以下の報告がありました。

県保健師人材育成指針(令和4年3月)の改定に当たり、保健師全員



活発なディスカッションが行われた実践報告

海外視察
研修を計画、ライブイベント
などで活動意欲を保ちにく
い中堅前期に
対し、学ぶ意識

が改定作業に関われるように保健所や部署単位で集まり、目指す姿や達成感を得た活動を語り合う機会を設けた。コロナ対応で疲弊する保健師の自己肯定感を高め、活動意欲を保つ上で非常に有効であった。

指針には管理期に至るまでに、すべての業務を経験することを謳っており、さまざまな職の経験が多様な行政ニーズに応えるための多角的視野と技術を持つ保健師の育成に効果があるため、キャリアパスとジョブローテーションに掲載している。OJTでは、採用4年目からプリセプターとしての指導、市町村等との連携が不可欠な業務を担当し、地域診断スキル向上や企画・実施・評価のプロセス経験につなげている。

キャリアレベル別研修では、新たに

の喚起、企画力の形成を意図して企画している。また、県内の中堅期保健師研修会は、今後のリーダーとしての資質を養うことを目的に開催し、受講者が管理期を見据えた自身の役割等を考える機会となり成果があった。

実践報告2

大阪府健康医療部健康医療総務課保健所・事業推進グループ田中佐代子氏から「大阪府における管理期に向けた中堅期保健師の人材育成」管理期のコンピテンシー・モデル作成の取組みについて以下の報告がありました。

人材育成は、保健師人材育成計画検討会で評価、検討しており、保健師の人材育成ガイドライン(令和2年3月)改定に沿って、キャリアアラダーの活用を開始。コロナ禍の3年度末の検討会にて「指導力を発揮できる主査級の育成が急務」キャリアアラダーのイメージにばらつきなどの意見があった。そこでプレ管理期に向けた重点的な人材育成のため検討会ワーキングにて「管理期保健師のコンピテンシー・モデル」の作成に取り組み(ステップ1)成果を上げた「管理期

人材育成」と題して講演いただきました。

初めに茂木先生らが令和5年度地域保健総合推進事業において実施した「中堅期保健師におけるプリセプター支援の方法や管理期に向けた人材育成の検討(代表・国立保健医療科学院横山徹爾氏)」の調査結果について以下の説明がありました。

統括保健師18名へのインタビューから中堅期保健師に対して実施している管理期に向けた人材育成の方法・内容として、次の4点が導き出されました。①事業化・施策化能力を向上させる ②行政的能力を向上させる ③次期管理職(統括保健師)になることを早期から意識させる ④中堅期保健師が抱える状況を理解し過度なプレッシャーを与えずモチベーションを向上させる。

この中で大切なのは、人材育成の対象となる中堅期保健師の実情を知ることであると話されました。

また、この調査結果に基づき、統括保健師が中堅期保健師の人材育成において留意すべき点として、能力と意識・態度の両輪へのアプローチが必要であること、OFF・OJT(研修)・OJT・ジョブローテーションを組

保健師活動事例25事例を作成、(ステップ2)代表的な9事例から成果につながる行動を抽出し、「具体的な資質・行動」として概念化、(ステップ3)事例から抽出した「具体的な資質・行動」を一覧表に整理、(ステップ4)「具体的な行動例」をキャリアアラダー一覧に追記。

この取り組みで、成果を上げる管理期保健師の活動モデルを、一定示すことができたが、作成に至るプロセスが重要であると判断し、今後はプレ管理期を対象とした研修会に応用し、コンピテンシーに着目した人材育成を図っていきたい。

報告後は、意見交換により、人材育成の重要性を確認しました。

閉会

次期開催
県である徳島県支部代議員総会理事の梅田理事から挨拶を頂き閉会となりました。



会場準備、運営にご尽力された福井県支部の皆さん